

第4回 準天頂衛星システム利活用促進タスクフォース 議事要旨

日 時：平成31年1月29日（木） 16：10～16：50

場 所：中央合同庁舎第8号館8階 特別大会議室

出席者：参考資料1 出席者一覧の通り

議事：

- (1) 準天頂衛星システム利活用促進に関する施策の予算案について
- (2) 準天頂衛星システムの利活用の取組について
- (3) その他

議事概要：

○冒頭、平井宇宙政策担当大臣より、準天頂衛星システムが昨年11月1日に4機体制によるサービスインとなったこと、平成31年度予算案と補正予算案含めて対前年比7.4%増の413.6億円を確保したことを紹介するとともに、世の中を大きく変える「みちびき」の利活用は各府省関係でも色々な可能性があるもので、政府一丸となった一層の利活用促進を図ることが重要であるとの挨拶があった。

○準天頂衛星システム利活用促進に関する施策の予算案について、府省庁側出席者からご説明があった。内容は下記の通り。

・左藤内閣府副大臣（科学技術・イノベーション担当、宇宙政策担当）から、「資料1-2」について、準天頂衛星システムの利活用の施策として、SIP第二期の自動運転、スマートバイオ産業・農業基盤技術、国家レジリエンス（防災・減災）の強化において準天頂衛星の測位機能やメッセージ通信機能を活用した研究開発を実施するとの紹介があり、引き続き、準天頂衛星システムの利活用を推進して参りたいとの発言があった。

・中根内閣府副大臣（防災担当）から、「資料1-3」について、内閣府防災担当では、人工衛星の機能と防災分野のニーズをマッチングさせる調査を、平成30年度二次補正予算を活用して実施し、調査結果を技術開発と防災のそれぞれの関係機関にフィードバックすることで、防災分野での人工衛星の活用促進やよりニーズに沿った人工衛星の開発に繋げていくとの紹介があり、当該調査は、内閣府の宇宙開発戦略推進事務局や科学技術・イノベーション担当、JAXA、第二期SIPの研究チーム等とも連携して取り組んでいくとの発言があった。

・永岡文部科学副大臣から、「資料1-4」について、2022年度から2023年度に

かけての準天頂衛星5から7号機等の着実な打ち上げに向けたH3ロケットの開発や、宇宙航空分野の発展を支える人材育成及び新たなサービスの創出に係る技術開発、アジア太平洋地域におけるセンチメートル級測位を可能とする補強信号の高精度化等の基盤技術研究等を推進し、文部科学省として引き続き準天頂衛星システムの利活用の促進に貢献をしてまいりたいとの発言があった。

・石川経済産業大臣政務官から、「資料1-5」について、経済産業省では国内外での準天頂衛星システムの利用促進に積極的に取り組んでおり、昨年12月にオーストラリアの公道で準天頂衛星を用いた自動運転の実証を行ったことの紹介があり、平成31年度の予算案においては、「政府衛星データのオープン&フリー化及びデータ利用環境整備・データ利用促進事業」及び「準天頂衛星を活用した無人航空機物流実証事業」を盛り込み、引き続き、関係省庁と連携して準天頂衛星を活用したサービスの創出に取り組んで参りたいとの発言があった。

・吉田総務省国際戦略局長から、「資料1-6」について、総務省では平成26年度より準天頂衛星システムの海外展開に向けた利活用の実証事業を実施しており、平成31年度は東南アジアにおける林業の効率化に係る実証事業を実施するための所要の予算を要求していることの紹介があり、準天頂衛星システムによるサービスが国内外で幅広くビジネスの基盤として活用されることを目指して、引き続き企業の方々や関係省庁と連携しながら実証事業に取り組んで参りたいとの発言があった。

・別所農林水産省農林水産技術会議事務局長から、「資料1-7」について、スマート農業実証関連プロジェクトでは農業機械の自動走行システム等の先端技術を生産から出荷まで現場に導入する取組等を全国で展開するとの紹介があるとともに、準天頂衛星システムからの信号を受ける低コスト受信機で更に安定した自動走行ができるものと期待しており、今後も農業分野における準天頂衛星システムの利活用に積極的に取り組み、スマート農業の社会実装を進めて参りたいとの発言があった。

・増田国土交通省大臣官房技術総括審議官から、「資料1-8」について、国土交通省では、航空用の衛星航法システムSBASによる測位補強サービスの提供のための地上設備の整備、電子基準点網の運用による測量の基準となる情報の提供とASEAN諸国へ国際展開、スマートシティの実証調査、新たなモビリティサービスの推進事業、歩行者の円滑な移動のためのナビゲーションサービスの実証、船舶の自動離着岸システムに関する技術開発に取り組んでいるとの発言があった。

○準天頂衛星システムの利活用の取組について

三菱電機株式会社 岡村常務執行役から、資料2「準天頂衛星システムの利活用の取組資料」について説明があったのち、自動運転や農業などの利用分野における取組状況について質疑応答があった。

○最後に、平井宇宙政策担当大臣より、この話は非常に夢があるので、そして、日本の優位性もあるので、デファクトで社会実装を推進したいのでよろしくお願ひしますとの挨拶があった。

(以上)